

■開催概要

- 大会名称 : 2022 FUN & RUN! 2-Wheels/鈴鹿サンデーロードレース第1戦
- 開催場所 : 鈴鹿サーキット・レーシングコース/東コース(2.243km)
- 開催日・天候 : 2022年3月12日(土)・快晴
- 主催者 : ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット 三重県鈴鹿市稲生町7992 <https://www.suzukacircuit.jp/>
- 開催クラス : ★総参加台数/155台
 - ROAD STAR II 7台
 - ROAD STAR EXPERT II 4台
 - FUN & RUN Mix Small/EXPERT 21台
 - ROAD STAR WARS II 15台
 - NEO STANDARD<CBR250R> 5台
 - NEO STANDARD<VTR250> 5台
 - NEO STANDARD<G310R> 12台
 - NEO STANDARD<Ninja250R> 21台
 - NEO STANDARD<YZF-R25> 16台
 - CBR250R Dream Cupエキスパートクラス 22台
 - CBR250RR Dream Cup 27台



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/



★レース写真は、バトルファクトリー様のHPで
ご購入いただけます。
<http://www.battle.co.jp/>

■次回開催予定

- 大会名称 : 2022 FUN & RUN! 2-Wheels/鈴鹿サンデーロードレース第4戦
- 開催場所 : 鈴鹿サーキット・レーシングコース/東コース(2.243km)
- 開催日 : 2022年6月4日(土)
- 開催クラス : NEO STANDARD (Ninja250R/YZF-R25/CBR250R/VTR250/G310R)、FUN & RUN Mix Big/EXPERT、
FUN & RUN Mix Small/EXPERT、ROAD STAR WARS I/ROAD STAR I/ROAD STAR EXPERT I
CBR250R Dream Cupエキスパートクラス、CBR250RR Dream Cup



“ファンラン&サンデーロードレース”を皮切りに、 2022年の鈴鹿サーキット・二輪モータースポーツシーズンが開幕!

「みんなで走ってバイクをもっと楽しもう!!」をコンセプトに1999年に始まった参加型レースイベントの「FUN & RUN! 2-Wheels (通称“ファンラン”)」。その2022年シーズン開幕戦が開催された。“ファンラン”の魅力は小排気量から大排気量まで、シングル、ツイン、マルチなど、様々なバイクが集まり、一日のうちでたくさんのレースやタイムアタックが見られることだ。中でもナンバー付きのバイクで気軽に参戦できるタイムアタック競技の「ROAD STAR」や、それらのバイクによるレース競技の「ROAD STAR WARS」は特に人気を集めている。今シーズンは開幕戦と第2戦で「ROAD STAR I / ROAD STAR EXPERT I / ROAD STAR WARS I」と「ROAD STAR II / ROAD STAR EXPERT II / ROAD STAR WARS II」が交互に行われ、第3戦では「ROAD STAR」「ROAD STAR WARS」全てのカテゴリーのタイムアタックとレースが開催されることとなった。

これらのカテゴリーには発売されたばかりのバイクをいち早く投入するエントラントがいたり、そうかと思えばずっと大切にしている愛車で長年参戦し続けているエントラントもいたりする。そのためマシンに注目して観戦する楽しみがもっとも大きいカテゴリーと言える。昨今の“ファンラン”では「NEO STANDARD」も注目を集めている。このカテゴリーは参戦マシンが比較的リーズナブルな価格帯で販売されており、参戦しやすいことに加え、スプリントレースでありながらレース途中でのライダー交代またはピットインが義務付けられており、セミ耐久のような楽しみ方ができるのも魅力。今シーズンより「Women's クラス」が新設され、さらに魅力が増したこの「NEO STANDARD」には合計59台が参加した。

さらに、今季は鈴鹿サンデーロードレースの「CBR250R Dream Cupエキスパートクラス」と「CBR250RR Dream Cup」が3戦にわたってFUN&RUN! 2-Wheelsと併催されることもトピックだった。Honda CBR250R、CBR250RRのワンメイクレースであるこのふたつのカテゴリーは、年間の合計ポイント数によってシリーズチャンピオンが決まるため、1年を通じて応援し甲斐があるのが魅力だ。マシンもタイヤもワンメイクのイコールコンディション、適度なパワーでライダーのテクニックが勝負のクラスだけに、今後ますますエントラントを集めそうだ。

今シーズンの“ファンラン”は、今回、6月4日(土曜日)、9月10日(土)、10月22日(土)の年間全4戦が開催される。1974年までに生産された往年の名車による「CLASSIC」のレースが開催される第3戦、年に1回のフルコース大会として行われる最終戦はもちろん、大排気量マシンによる「ROAD STAR I / ROAD STAR EXPERT I / ROAD STAR WARS I」や「FUN & RUN Mix Big / EXPERT」が開催される次回第2戦も楽しみだ。



CBR250R Dream Cupエキスパートクラス 決勝スターティンググリッド

ROAD STAR II / ROAD STAR EXPERT II

フリー走行でトップタイムをマークした大内田伝がコースイン直後にまず1分00秒770をマーク。その時点でこのタイムアタック唯一となる1分00秒台を記録する。大内田は次の周には1分00秒348、さらにその次の周には1分00秒147をマークして自己ベストを更新し続ける。それに続くのはフリー走行で2番手タイムをマークした新堂剣大。新堂は1分02秒178、1分01秒975をマークしてこちらも自己ベストを更新する。結局、大内田の1分00秒147が総合トップタイム。大内田がEXPERT C6クラスのウィナーとなった。総合2位は1分01秒429までタイムを詰めた新堂。新堂がEXPERT C5クラスを制することとなった。C6のクラスウィナーは総合3位の幾田晃弘だった。



ROAD STAR II総合表彰式 (優勝:幾田晃弘、2位:鈴木竜也、3位:神園孝志)
ROAD STAR IIカテゴリー別表彰式 (C4優勝:鈴木竜也、C6優勝:幾田晃弘、C7優勝:神園孝志)



ROAD STAR EXPERT II総合表彰式 (優勝:大内田伝、2位:新堂剣大、3位:明後邦彦)
ROAD STAR EXPERT IIカテゴリー別表彰式 (C5優勝:新堂剣大、C6優勝:大内田伝、C7優勝:木曾津津子)

ROAD STAR WARS II

ポールポジションスタートの柴田直行が若干フロントを浮かせながらも良いクラッチミートを披露してホールショットを奪う。早くも後続を引き離すことに成功した柴田、2番グリッドスタートの水本茂樹、5番グリッドスタートの竹廣草生のオーダーでオープニングラップを終了。柴田はその後も後続を引き離し続ける。水本も竹廣以降を引き離しにかかるが、すぐに竹廣が水本のテールを捉える。再び竹廣を引き離すことに成功した水本は徐々にトップの柴田に接近。水本はファイナルラップの1コーナー進入で柴田をパスしたが、バックマーカーの処理に手間取ったその水本を柴田が逆バンクでパスしてトップチェッカー。それに水本、丹後明義と続いた。



ROAD STAR WARS II総合表彰式 (優勝:柴田直行、2位:水本茂樹、3位:丹後明義)
ROAD STAR WARS IIカテゴリー別表彰式 (C5優勝:水本茂樹、C6優勝:柴田直行、C7優勝:大山竜司)

※表彰式は総合・カテゴリーを合同で実施しています。
※表彰式に不参加の選手、あるいは代理の場合もあります。
※正式結果はウェブサイトでご確認ください。

FUN & RUN Mix Small / EXPERT

ポールポジションスタートの岸田尊陽と2番グリッドスタートの宮島伸也が横並び状態で1コーナーへ。ホールショットを奪ったのは岸田。その岸田、宮島、6番グリッドスタートの本田和将のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。岸田は次第に宮島以降を引き離すことに成功。宮島も単独2番手となる。その後方では3番グリッドスタートの大竹洋司が本田をパスして単独3番手に。4番グリッドスタートの高村一明も本田をパスして4番手になる。マシントラブルのため予選を走れず、最後尾スタートとなった可部谷雄矢が本田に続く6番手まで浮上する。最終的に3秒701のアドバンテージを築いた岸田がトップチェッカー。それに宮島、大竹と続いた。

※表彰式は総合・カテゴリーを合同で実施しています。
※表彰式に不参加の選手、あるいは代理の場合もあります。
※正式結果はウェブサイトでご確認ください。



FUN & RUN Mix Small総合表彰式 (優勝: 田辺学、2位: 星山忠彦、3位: 中村知也)
FUN & RUN Mix Smallカテゴリー別表彰式 (Small I優勝: 田辺学)



FUN & RUN Mix Small EXPERT総合表彰式 (優勝: 岸田尊陽、2位: 宮島伸也、3位: 大竹洋司)
FUN & RUN Mix Small EXPERTカテゴリー別表彰式 (Small I EXPERT優勝: 岸田尊陽、Small II EXPERT優勝: 矢野正幸)

NEO STANDARD<Ninja250R/YZF-R25>

参加台数37台の中から予選上位34台が決勝出走を果たしたこのカテゴリー。ポールポジションスタートの西良英之が良いクラッチミートを披露してホールショットをゲットする。その西良、2番グリッドスタートの鳥居典生、8番グリッドスタートの大林正章/三由昇平組の三由のオーダーでオープニングラップを終了すると、鳥居が2周目にトップに。3周目では三由がトップとなる。転倒したマシンがあり、救急車がコースに入ったことにより、赤旗が出されてレースは中断。11周による第2レースでは三由がホールショットを奪うと、オープニングラップから後続を引き離す。三由は周回ごとに後続を引き離し続けて5周目終了時点でピットイン。大林にライダーチェンジする。第1レースでピットインを終えていた池田一仁の総合優勝とYZF-R25クラスの優勝が決まった。Ninja250Rクラスを制したのは総合2位の郡山隼一/可部谷雄矢だった。

- ※表彰式は総合・カテゴリーを合同で実施しています。
- ※表彰式に不参加の選手、あるいは代理の場合もあります。
- ※正式結果はウェブサイトでご確認ください。



NEO STANDARD<Ninja250R>表彰式 (優勝:山本晃久、2位:花田定夫、3位:大口智範)



NEO STANDARD<YZF-R25>表彰式 (優勝:池田一仁、2位:鳥居典生、3位:中村和悦)

NEO STANDARD

<CBR250R/VTR250/G310R>

ポールポジションからスタートした鈴木克正/福山京太組の福山がスタートで出遅れる。ホールショットを奪ったのは3番グリッドスタートの小牧寛由。それに2番グリッドスタートの佐々木龍人が続く。小牧、佐々木、福山のオーダーでオープニングラップを終了するが、2周目のメインストレートで佐々木が小牧をパス。佐々木、小牧、福山がトップグループを形成する。その3台はバックマーカーを処理しながら周回ごとに激しく順位を入れ替えるバトルを展開。福山が17周終了時点でピットへ。鈴木にライダーチェンジする。佐々木と小牧は18周目終了時点でピットインする。小牧が先頭でコースに復帰。小牧と佐々木の間には6秒ほどのタイムギャップが広がることとなる。結局、小牧がトップチェッカーを受け、G310Rのクラスウィナーに。総合3位の樋口圭祐がVTR250クラスを、総合6位の奥田勇人がCBR250Rクラスをそれぞれ制した。

- ※表彰式は総合・カテゴリーを合同で実施しています。
- ※表彰式に不参加の選手、あるいは代理の場合もあります。
- ※正式結果はウェブサイトでご確認ください。



NEO STANDARD<CBR250R>表彰式(優勝:奥田勇人、2位:中川真慶/竹田透、3位:鈴木克正/福山京太)



NEO STANDARD<VTR250>表彰式(優勝:樋口圭祐、2位:高橋潤、3位:上平真)



NEO STANDARD<G310R>表彰式(優勝:小牧寛由、2位:佐々木龍人、3位:川崎寛治)

CBR250R Dream Cupエキスパートクラス

ポールポジションスタートの大田雅裕、2番グリッドスタートの竹本倫太郎、3番グリッドスタートの奥中凱心の3台が横並びの状態です。1コーナーへ。ホールショットを奪った太田が後続に1秒259のアドバンテージを築いてオープニングラップを帰ってくる。それに続くのは奥中、竹本。さらに滝かおる、山口直哉らが続き、2位グループは7台の集団となる。滝、奥中、山根頭、山口が抜け出しかけるが、再び集団に。さらにそこに石田章裕、金田博行ら加わる。その集団がバトルを続ける間も安定したペースで走行を続けた大田が最終的に4秒305ものアドバンテージを築いてポールトゥウィン。2位は山口。女性ライダーの滝が3位でチェッカーを受けた。



CBR250R Dream Cupエキスパートクラス (優勝:大田雅裕、2位:山口直哉、3位:滝かおる)

CBR250RR Dream Cup

2番グリッドの岩月寿樹がスタートで出遅れて集団に飲み込まれる。ポールポジションの福井宏至はスタートでウィリーするが、その福井がトップでオープニングラップを終了。3番グリッドスタートの仲泉霞皇、5番グリッドスタートの鈴木克正と続く。その3台がトップグループを形成。若干離れて岩月が4番手を走る。4周目に鈴木が仲泉をパス。岩月は徐々にトップ集団に接近していく。5周目になるとトップ集団は福井、鈴木、仲泉、岩月の4台に。鈴木と仲泉がバトルを続ける間に福井は2番手以降を引き離すことに成功するが、鈴木と仲泉をパスした岩月が11周目のメインストレートで福井に並ぶ。しかしトップチェッカーを受けたのは福井だった。



CBR250RR Dream Cup (優勝:福井宏至、2位:岩月寿樹、3位:仲泉霞皇)

※表彰式は総合・カテゴリーを合同で実施しています。

※表彰式に不参加の選手、あるいは代理の場合もあります。

※正式結果はウェブサイトでご確認ください。